

Vol.8 No.2 [2002]より、本誌の編集に携わらせて頂いております。まだまだ未熟ではありますが、皆様方に御指導頂きながら、よりよい誌面作りのお手伝いをさせて頂ければと思います。

さて、最近、世界各地の大学、研究機関で大規模な構造ゲノム科学研究が行われており、製薬企業などでもタンパク質の立体構造をもとにした医薬品の開発に本格的な取り組みが行われようとしているのを、耳にするようになりました。そうした中、日本国内においても、タンパク質構造解析研究について、研究環境が整備されつつあると思います。SBSP ビームラインについていえば、BL6B における R-AXIS-IV++の導入や、BL6C の稼働など、よりよい環境が整いつつあるように感じます。環境が整備されつつある状況にあって、タンパク質構造解析を創薬研究に役立てるために、今後一層の努力が必要だと感じております。

今後も構造生物の一層のご愛読をお願い申し上げます。

( M. I. )

#### 編集委員会

委員長	栗原 宏之 (山之内製薬)	kurihara@yamanouchi.co.jp
委員	曾我部 智 (日本ロッシュ)	satoshi.sogabe@roche.com
委員	幾田 まり (萬有製薬)	ikutamr@banyu.co.jp
顧問	田仲 可昌 (筑波大学)	ytanaka@sakura.cc.tsukuba.ac.jp